

団体名
特定非営利活動法人
北海道心不全医療連携アカデミー

事業名
全世代を対象とした
心不全発症予防に関する
啓発活動を通じた
健康寿命延伸事業



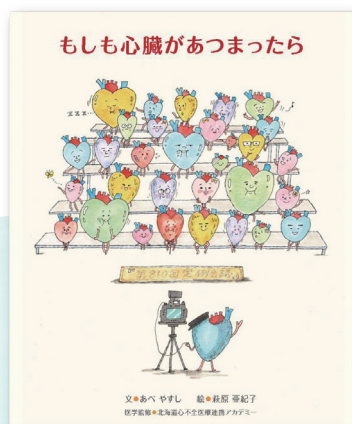
活動拠点 札幌市内(北海道全域・2024年より和歌山県のNPO法人とも連携)

設立の経緯 北海道大学医学研究院に設置された寄付講座が前身。高齢化に伴う心不全症例の増加による医療逼迫に危機感を覚え、心不全に関係する様々な医療専門職が集い2022年に設立。

私たちはこのような活動をしている団体です



多職種連携を図りながら、地域での心不全療養の質向上を目指しています。心不全の専門知識向上のため、医療職向けWEBセミナーを月1回開催。加えて「心不全療養指導士」資格取得サポートも実施しながら、市民向けに健康啓発イベントを行うことで、地域に根差した心不全療養指導を実践しています。



心不全予防啓発絵本冊子
『もしも心臓があつまったら』
文: あべ やすし
絵: 萩原 亜紀子
医学監修:
特定非営利活動法人
北海道心不全医療連携アカデミー
(全28ページ、非売品)

すべての人の心に響く健康啓発活動で、急増する心不全を予防

高齢化で心不全患者が急増する中、令和5年にチカホで行った市民健康イベント「心不全撲滅宣言2023」には多くの方が来場されました。イベントを通じて市民の健康リテラシーの高さを実感した一方で、単発の対面イベントの限界も痛感し、「いつでも・どこでも・だれにでも・強く心に強く響く『啓発活動』」の実践を目指して、今回の事業を計画するに至りました。この事業は、①健康啓発絵本『もしも心臓があつまったら』の製作と市内図書館・医療機関への献本、②市民イベント「しみサポマルシェ」で行う絵本を利用した健康増進運動の二本柱からなります。絵本は健康にあまり興味のない市民にも親しみやすくアプローチできる内容とし、初版本1,500冊を発刊しました。

絵本の持つ力を生かし、さらに健康増進運動を進めます!

絵本『もしも心臓があつまったら』では、多彩な心臓キャラクターの存在によって幅広い年代の方々に心不全を身近に感じていただくことができました。絵本が読者を引き込む力はとても大きいことを実感し、令和7年3月に試験的な小規模朗読会を開催したところ、大きな反響がありました。社会のニーズに即した先駆的な「市民健康啓発資材」の開発ができたと手応えを感じており、今後も各地で定期的な朗読会を開催していく計画です。また市民イベントでの健康増進運動を通じて、地域のさまざまな医療専門職の方たちと連携しながら、地域に根差した心不全サポート体制を浸透させることができました。今後も医療専門職の多職種連携を深め、心不全の発症・進行の予防に努めることで、健康寿命の延伸に貢献していきたいと思います。

